



## 道の駅もがみの来場者が10万人を突破

道の駅もがみの来場者数が令和5年11月26日のオープンから、約半年後の6月12日（水）に10万人を突破しました。当日は、これを記念して10万人目の来場者となった舟形町在住の叶内さんに道の駅の管駅長より記念品として、アスパラガス等の特産品が贈られました。叶内さんは「道の駅から眺める最上小国川の景観が素晴らしく、これから迎える鮎つりの季節など四季折々の景色を楽しめる。」と笑顔で話してくれました。管駅長は「道の駅を活用して、町全体の魅力を発信し、誘客の促進につなげていきたい。」と今後の抱負を語ってくれました。

## 園 児がさつまいもを植えました

6月13日（木）、晴天に恵まれたこの日、あたごこども園と大堀保育所の年中児が、赤倉の産直ゆけむりが管理している畑でさつまいもの植付を行いました。産直ゆけむりの皆さんの指導を真剣な眼差しで聞き、「大きくな～れ」と声をかけながら、園児たちは会員のみなさんと一緒に小さな手で苗を植えました。秋にたくさんのさつまいもが収穫できることを楽しみにしていました。



## きれいな川で住みよいふるさと運動

きれいな川で住みよいふるさと運動は、河川海岸愛護に対する意識の醸成と、美しく快適で豊かな環境づくりを目的に、市町村、関係団体の積極的な参加とご協力のもと、昭和52年から実施されてきました。運動47年目となる令和6年度も、6月16日（日）に約2,000名の町民と関係団体協力のもと、町内一斉河川清掃を実施しました。ご協力いただいた、町民・関係団体の皆様、ご協力ありがとうございました。

## 最上町消防団協力事業所 認定証交付式

株式会社結城林業（結城貴宏代表取締役）が、6月1日付で最上町消防団協力事業所に認定されました。6月18日（火）、町長室において関係者が出席する中、高橋町長より認定証と消防団協力事業所の表示プレートが交付されました。今回の認定で、町の消防団協力事業所は8事業所目となります。



## 第8次行財政改革大綱・プランの策定に向けた取り組み

今月号から第8次行財政改革についての情報をシリーズでお伝えします。

**持続可能なまちづくりを**  
目指して

最上町の人口は、下図から読み取れるように、急速に進む少子高齢化に伴い、町が誕生した昭和29年当時に比べ、現在は半数以下にまで減少しています。

そのような中、町は今年で町制施行70周年を迎えることから、この4月1日に、第8次行財政改革推進本部を設置し、社会情勢も踏まえつつ、次の時代につなげられる行財政運営の対策を検討していきます。

**第8次行財政改革大綱・プラン**  
が掲げる方向性

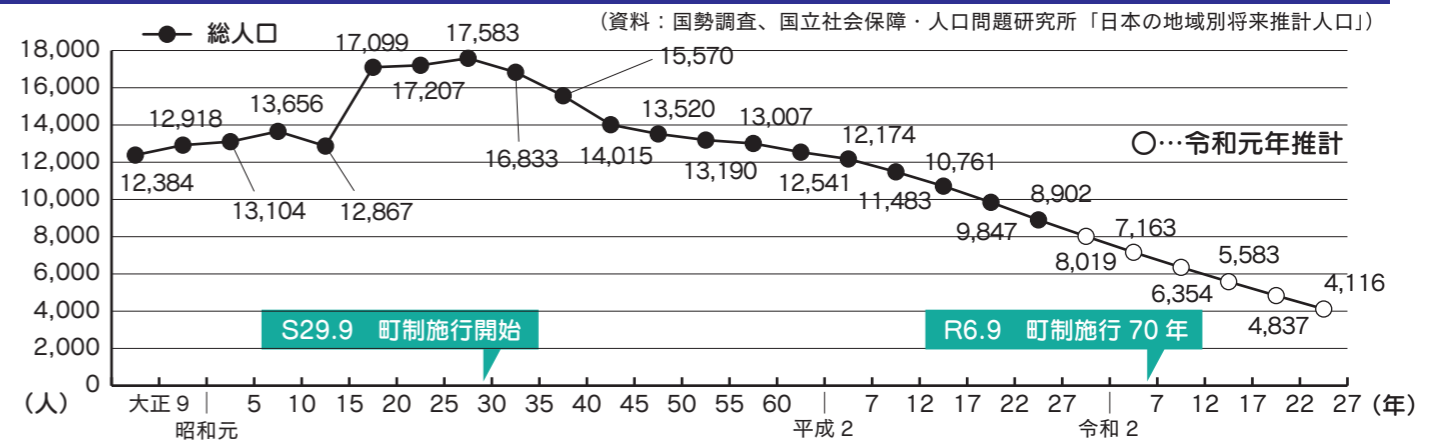
①地域コミュニティ機能の向上を通じた協働のまちづくりの推進  
……防災や地域活性化に対し、幅広い地域連携を図り、担い手の確保を目指す。

②効率的で自立性の高い行財政運営の展開  
……事務事業の選択と集中を図り、デジタル化への対応や公営企業の経営健全化を目指す。

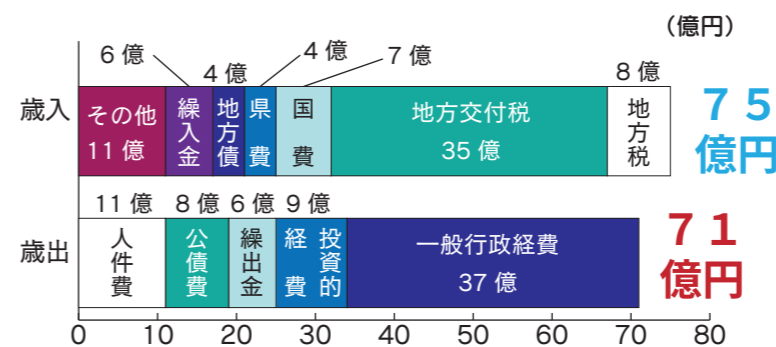
③行政・民間を合わせた人材の育成  
……行政サービスの向上や、各分野の担い手の確保を目指す。

④住み続けられる環境の維持  
……高齢者を主な対象に、冬の間の暮らしを支え、移動対策を確保する。

## 最上町の人口推移（まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョン）



## 令和4年度 歳入歳出決算額



**次の時代を見据えた対策と**  
するために

左の図は、令和4年度の町の財政規模を表わしています。一方、下の棒グラフは、町の公共サービスを支えるインフラを維持していくために、今後必要な額を表しています。今回の第8次の計画については、確実に持続できる行財政運営を目指し、次代につながることを目的としています。

そのためには、常に町の事務事業と公共インフラに対し、「選択と集中」の視点を保ち、町民の皆さまとの情報の共有をもつて、着実に前進を図る計画として行きます。

## 町の公共施設全体の更新費用（費用は建物系公共施設、道路、橋梁、上下水道などの合計金額です）

